

■令和5年度第6回（第331回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 令和5年11月22日（水） 午後2時20分～午後2時30分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、日野副市長、高橋副市長、小川副市長、教育長、水道事業管理者、都市戦略本部長、総務局長、財政局長、都市局長、総合政策監

【議 題】 「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）」について

< 提案説明 >

「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）」について、都市局より次のような説明があった。

- 本審議は、「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）」について、ご審議いただくもの。
- 本ビジョンは、平成26年に市民と事業者等がまちの将来像を共有し、実現に向けて取り組むための基本的な指針として策定した。
- さいたま新都心は、市役所本庁舎の移転が決定する等、今後まちを取巻く状況が変化する中、更なる発展が求められている。そこで、まちの基盤を「つくる」から、「育て、活用していく」時代に向けた戦略等を示すために、本ビジョンを改定するもの。
- 目標年次は、概ね2050年のまちの将来像を展望した上で、運用期間を概ね10年間とし2033年としている。
- ビジョンの位置付けについては、改定前と同様に、まちづくりの基本的な指針とし、総合振興計画や周辺の関連計画等と整合・連携を図っていく。
- 対象区域は、さいたま新都心周辺のまちづくりとの効果的な連携等が重要であるため、明確なエリアは示さないこととしている。
- 「第2章 さいたま新都心をとりまく状況」について。
- まちの成り立ちとしては、昭和59年に大宮操車場の機能廃止後に政府機関が移転し、平成12年にまちびらきが行われ、現在に至っている。
- ここからは、課題の整理について。始めに、土地区画整理事業における目標、前ビジョンの将来像を踏まえ、現在まで残されたと考える課題としては、創造的で楽しい都市空間の形成と回遊動線の確保と整理した。
- 合わせて、現在のまちの価値と魅力をさらに高めるためのまちの課題を整理した。
- また、政策課題としては、さいたま新都心周辺の主要なプロジェクトや、市役所本庁舎整備と一体的なまちづくり等が必要であるとしている。
- 最後に、今後の社会情勢の変化を踏まえた課題としては、地域固有の魅力の向上及び発信や、環境施策の導入等の5点を示している。

- 「第3章 さいたま新都心が今後果たすべき役割」について。
- これまでの課題を踏まえ、さいたま新都心のまちづくりは、東日本、市域、そして大宮との連携が重要であるため、3段階の圏域ごとに今後果たすべき役割を設定した。
- 「第4章 目指すまちの将来像」について。
- 今後果たすべき役割を踏まえて将来像を設定し、将来像を実現していくために、目標を、にぎわい、安心・安全、みどりの観点から設定した。
- 「第5章 まちづくりの展開」について。
- 将来像の実現に向けて、まちの基盤となる性能を向上させる戦略と不足している性能を強化する戦略に基づき施策を整理し、実現に取り組むこととしている。
- 具体には、目標ごとに施策を設定し、周辺との連携の考え方・関係性、主な取組の位置を示す展開図にまとめ、整理した。
- 目標1では、市役所本庁舎の整備及び大宮駅西口交通結節点事業などを活かした高次都市機能の集積を図ることなどに取り組む。
- 目標2では、広域的な支援、受援機能を可能とする本庁舎整備と防災活動拠点としてのさいたまセントラルパークなどのそれらの防災機能を相互に補完する考え方を記載した。
- 目標2施策3では、移動の快適性と安全性を高める取組を進めることとしている。
- 次に、目標3では、大宮駅、氷川神社をつなぐルートを主要なみどりの軸として、ウォーカブルなまちづくりや、脱炭素に向けた取組を実施する。
- さらに、国の事業である核都市広域幹線道路や（仮称）バスタ大宮をイメージしているが、それらを生かしながら施策に取り組み、まちの付加価値向上を図る。
- 「第6章 まちづくりの進め方」について。
- 今後、「つくる」から「育てる」まちづくりに転換するためには、多様な主体との連携のもと、まちづくり組織が中核となることが重要。
- 推進力のある活動が期待できるエリアマネジメント組織と、役割分担・連携を図りながら、まちづくりを進めていく。エリアマネジメント組織の成長に向け様々な方策を実施し、人材等の資源を蓄積することで活動の充実を促進する。
- 次に、行政で検討を進めており、かつ、今後積極的に実施する取組を「先導プロジェクト」として設定している。
- 先導プロジェクト1では、出かけたくなる移動環境への転換を目指すため、先進技術を活用した交通施策の計画的推進等を実施する。
- 先導プロジェクト2では、大規模災害発生時の避難場所等の役割を果たす、さいたまセントラルパークの整備を進める。
- 先導プロジェクト3では、本庁舎の整備により、新たな回遊拠点の形成等の効果を発揮させる。
- プロジェクトの取組の進捗管理は、総合振興計画に位置付け実施する。
- 最後に、今後のスケジュールについて。12月議会に報告後、パブリックコメントを実施し、市民等のご意見を反映した上で、令和6年3月の改定を目指していく。

< 意見等 >

- ・ エリアマネジメント組織の支援に市の財政負担はあるか。
- 財政支出が発生するものではなく、まちづくり組織同士の情報共有を行う機会の創出や、他都市先行事例の情報提供、公共空間を利用しやすくするためのサポート等、組織が円滑に活動されるための支援を予定している。

< 結果 >

- ・ 都市局発議の「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）」について、原案のとおり了承とする。

< 会議資料 >

- ・ 「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）」について
- ・ 「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）」
- ・ 「さいたま新都心将来ビジョン改定版（素案）概要版